

# ソフトテニスに対するイメージ調査

## —硬式テニスと比較して—

科学コミュニケーションゼミナール 1316049 橋本 優実

### 1. 研究動機・研究目的

現在、日本中学校体育連盟においてソフトテニスの加盟生徒数は全 19 競技のうち男子 5 位、女子 1 位となっている。しかし、高校になると加盟数は約 4 分の 1 まで減少し、日本高等学校体育連盟におけるソフトテニスの加盟生徒数は、加盟競技数が男子全 36 競技、女子全 32 競技と増えているがそのうち男子 7 位、女子 5 位とどちらも順位を落としている。硬式テニスは現在日本中学校体育連盟には加盟していないが、日本高等学校体育連盟においての加盟生徒数は男子はソフトテニスよりも多く、女子はわずかにソフトテニスよりも少ないがほぼ同数である。なお硬式テニスは 2021 年に中学校体育連盟に準加盟する見通しがある。日本学生ソフトテニス連盟と日本学生テニス連盟とともに UNIVAS の加盟競技団体である。また、ソフトテニスの国際大会としては、アジア選手権大会、世界選手権、アジア競技大会、東アジア競技大会の 4 つの大会を 4 大国際大会とされている。オリンピックやワールドカップといった他のスポーツの祭典と同様にいずれも 4 年に一度の開催で、ソフトテニスの場合はこの 4 大国際大会が毎年順番に開催されている。4 大国際大会といっても、全世界で行われているのは世界選手権のみであり、3 つの大会はアジアのみの開催である。これらのことから非常に競技人口が多く生涯スポーツとして推薦される競技であると考えられるが、競技人口は減少していくこと、オリンピック競技ではないことなどの現状からマイナースポーツとして存在する。そこで、本研究ではソフトテニスのイメージをメジャースポーツとして知られる硬式テニスとの比較から明らかにすることを目的とする。そして、これからのソフトテニスの展望を考察し、ソフトテニスがこれから発展していく方策を探る。

### 2. 研究方法

対象者は、関東にある体育系大学に所属する学生 131 名（男性 44 名、女性 87 名、 $18.97 \pm 0.73$  歳）とした。そのうち、硬式テニスの経験者は 11 名（男性 3 名、女性 8 名、 $18.98 \pm 0.74$  歳）、ソフトテニスの経験者は 7 名（男性 3 名、女性 4 名、 $18.84 \pm 0.64$  歳）である。他のラケット競技の経験者は 5 名（男性 2 名、女性 3 名、 $18.60 \pm 0.49$  歳）、他の競技又は無所属は 105 名（男性 35 名、女性 70 名、 $18.95 \pm 0.72$  歳）である。

ソフトテニスのスポーツに対するイメージを硬式テニスと比較するための質問項目として予備調査で選定した全 20 項目を採用した。また、ソフトテニスのスポーツマン的性格に対するイメージを硬式テニスと比較するための質問票として泉らが作成したスポーツマン的性格質問票を採用した。

ソフトテニスのスポーツに対するイメージと硬式テニス及びバドミントン、卓球、スカッシュの関連を明らかにするため、分析対象全体とソフトテニス及び硬式テニスの経験者の回答を集計したクロス集計表を作成した。第 2 に、各競技のスポーツに対するイメージの構

造を明らかにするため、コレスポンデンス分析を行った。最後に、ソフトテニスと硬式テニスでスポーツマン的性格に対するイメージの得点に有意差が認められるかを検証するため、t検定を行った。先行研究における因子分析法を用いた推定の結果によって抽出された10因子に分類した(t検定)。コレスポンデンス分析とt検定による分析結果を比較した。

### 3. 主な結果と考察

スポーツに対するイメージは、硬式テニスはセレブなスポーツの印象が強く、ソフトテニスは泥臭いスポーツの印象が強い結果を示した。このことから、ソフトテニスは競技性が高いイメージがあると推察でき、硬式テニスはソフトテニスに比べて優雅で娯楽のイメージが強いと推察できる。

スポーツマン的性格に対するイメージは、全体の結果は、第9因子(物事にこだわらない情緒性因子)において有意な差を確認した(硬式テニス>ソフトテニス)。経験者の結果は、第7因子(社会性を含んだ情緒性因子)において有意な差を確認した(硬式テニス<ソフトテニス)。これらはいずれも10%水準の結果である。このことから、ソフトテニスは硬式テニスに比べて競技性が高いイメージであり、硬式テニスはソフトテニスに比べて娯楽性が高いイメージであると推察できる。しかし、有意な差が認められたのは10因子中1因子のみであったため、スポーツマン的性格の違いはあまりない可能性を窺える。

### 4. 結論

本研究は3つの結論を導いた：①ソフトテニスにおけるスポーツに対するイメージは硬式テニスと比較すると、かたくるしい泥臭い競技としてのスポーツであることが明らかになった、②ソフトテニスと硬式テニスにおいてスポーツマン的性格に対するイメージの違いはない、③ソフトテニスに対して気軽に行える娯楽としてのスポーツのイメージを発信していくこと、ビジュアルに親近感を持たせることがソフトテニスの発展において重要であると考察する。

### 5. 卒業論文の執筆を終えて

はじめに、卒業論文という機会で自分の興味のあることを多くの方々に協力してもらい調査をすることができとても関心の深い機会となった。一般的にソフトテニスと硬式テニスの認識の違いがわからない人やあまりない人が多かったことが意外であった。

ソフトテニスのスポーツに対するイメージは予想よりもはっきりと差が出た。この結果は、予備調査において分かりやすい項目を選択し、質問項目数を飽きずに答えられる数に決定したことが原因であると考えられる。しかし、ソフトテニスのスポーツマン的性格に対するイメージは予想通り差が出なかった。この結果は、質問項目が困難であり質問項目数が多かったことが原因であると考えられる。

分析においては、少しは理解していたが決まった動作で機械が行ってくれたので、もっと理解を深められたらよかったと反省する。

ソフトテニスが盛んな中学生や高校生を対象に同じ調査を行ったらどのような結果となるのか、また、ソフトテニスや硬式テニスをよく知っている人の対象がもっと多ければどのような結果になるのか、関心を持ったのでさらにこの研究を広げていけたらと思う。